杜と人との関わりについて

「人」と「自然」が、
都市化によって、経済的理由等によって、
物理的にも、精神的にも切り離されて久しく、
そのことに疑問を抱く機会も少なくなってきている気がします。

そもそも、
「人」も、生き物として「自然」であり、
「自然」として生きる存在なのです。

「わたし」は「自然」。

たけはやの杜で、自然のつながりの中にしばし身を委ねてみましょう。

杜の木々、草花、そこに住まう生き物、土の中の微生物、すべてがネットワークで
繋がっていること、そして自分もこの繋がりの一部であることを自らの身体を通して
体感する。

「実感する」までには少し時間がかかるかもしれません。
私もまだ道半ばです。

それでもいつか、内発的な変化が起きて、「わたしは自然」ということを
身をもって「実感する」ことができると信じています。

土の上を裸足で歩いて感じてみる、

木々の揺らぎをよく見て感じてみる、

そよ風に身を委ねて感じてみる、

その気持ちよさ、よろこび感が「私は自然」の兆しなのかもしれません。

代表　岩田　隆子